○ Q&A（R8.9.29）

＜Q１＞

「盛土１」、「盛土２」では安定計算がされているが、大規模盛土造成地に該当しなかった「盛土３」、「盛土４」に関しての計算結果は出ているのか。

＜A１＞

「盛土３」、「盛土４」については、国のガイドラインから大規模盛土造成地に該当しないため、安定計算は行っていません。

ただし、町としてはこれらの盛土の状態を常に把握したいと考えており、宅地カルテを整理し、現地写真や盛土規模等を整理した上で監視している状況です。

＜Q２＞

常時外観等の監視はされているということであるが、地震等の災害によって異常等が見られた場合には、「盛土１・ ２」のようにボーリング調査などを行うという認識でよろしいか。

＜A２＞

「盛土３・４」についてはそのように対応し、必要に応じて工事を行うことになると思われます。

ただし、国の補助金は大規模盛土造成地以外では対象となりませんので、具体の対策は慎重に検討していく必要があると考えています。

「盛土３」については、下部に擁壁があることにより盛土自体が抑え込まれていますが、地震が発生すれば大きく揺すられるため、盛土が変動するというよりは締固めが不足している盛土が締まって表土が沈下する現象が起きていると思われます。

「盛土４」については、９月７日の大雨の際、盛土下の段差箇所（桜が植えられている辺り）の現地確認を行いましたが、湧水などの異常は確認できませんでした。今後もこういった確認の機会を逃さずに盛土の経過観察を行っていきたいと考えています。

＜Ｑ３＞

資料１、２ページに記載されている水位の観測結果について、最高水位や最低水位といった水位に関することついて、もう少しわかりやすく説明してくれないか。

＜Ａ３＞

地下水位を観測するためには、降雨量をチェックする必要があり、団地に最も近い観測地点として、アメダスの亘理のデータを使用しています。

早い箇所では令和６年７月１日から観測を開始し、つい先日（令和８年９月１１日）まで継続していました。資料で示しているのは令和７年度事業の完了時までの調査結果となります。

その中で降雨量が多かったのが令和７年５月３１日でしたが、降雨量と地下水の高さは必ずしも一致するわけではありません。例えば夏季などは雨が降ってもすぐに蒸発してしまいますので、あまり地下水位は上昇しません。むしろ秋などに長時間降る雨の方が地下水位の上昇が見られるという結果でした。

地下水位の計測は、地中（盛土部）に複数穴のあいた塩化ビニル管を挿し、観測器をぶら下げて自動的に観測を行いました。例えば「R7-B2」の箇所での観測結果では、最高水位が「GL-0.97」、つまり地表面（グラウンドレベル）から深さ 97 ㎝まで地下水位が上がったという結果が出ています。最低水位は「GL-2.85」のため、その差 1.88m分地下水位が上昇したことになります。

安定計算は、地下水位の高さが非常に重要な要素となります（盛土に水を含むと、浮力によりかみ合わせが弱くなり強度が落ちる、重量が重くなり地震により重力に従って滑りやすくなるなど)。他の自治体では平均水位で計算を実施する場合もあるようですが、山元町では最高水位を採用することで、より危険側（最悪条件下）で安定計算を行った結果、大規模地震等により滑動崩落の危険性がある箇所が見受けられ、今後対策を進めていく必要があるという調査結果が生じたものです。